

STAGE 12, "アクトマキア開戦" 1

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキア会場
	//ガヤガヤ、人混みの音
イオン	おお、見てくださいユーザーさん。 あちらもこちらも、歴戦のACTと ACT使いだらけです！
テルミ	しーっ、イオン。 大声出したら、はじまる前から UNPLたまっちゃうでしょ。
ミアラカ	結局、カツマさんは 欠席みたいですねえ……。 せっかく招待されたのに。
キョータロー	だなあ。 あいつにも事情があるんだろーけど、 一緒に戦えないのは勿体ねーな。
ムツキ	……………。
ミアラカ	うひ、あっちには 天渡ムツキもいますね。 目を合わせたら誘拐されそです。
イオン	お……？ ユーザーさん、 あそこに登壇されているかたは……。
キョータロー	オルタナステージCTO。 ……ラザロ様の開会宣言か。
ラザロ	——最も強く、 最も美しく在ることを目指す、 選ばれたACT使い達よ——。
ラザロ	——あなた達は己の現実を 世界に知らしめるため、 あえてこの舞台に立った！
ラザロ	オルタナステージは、 現実を拡張し、攪張する あなた達を、全力で称えよう！
アナテマ	……………ふふっ。
イオン	……………？
ラザロ	この現実を楽しめ！ 己の物語を戦え！ レイヤードに、もはや壁はない！
ラザロ	世界を変革する、ACTの戦争—— アクトマキアを生き延び、 時代を変革する英雄となるのだッ！
参加者たち	うおお—————っ！！！！
	//歓声のSEなど
イオン	……はじまりますね、 ユーザーさん。 ついに、この舞台が——

イオン	アクトマキアが、 はじまりますよ！
	//選択肢 A ドキドキするね B 頑張ろう
選択肢A	ドキドキするね
イオン	はい！ わたしの人工ニューロンも、 激しく活性化しています！
選択肢B	頑張ろう、イオン
イオン 合流	はい、 必ずお役に立ってみせます、 ユーザーさんっ。
	■アクトマキアステージ
テルミ	キョータローとミアラカは、 別の予選会場か。 キミらのほうが対戦早かったね。
イオン	はい。テルミとはしばらく 勝ち続けなければ、 当たりませんね。
テルミ	あは、決着はまだ先だね。 緊張してない、イオン？ こんなところで負けないでよ？
イオン	もちろんです、テルミ。 わたしがいる限り、 ユーザーさんは負けません。
??	……お兄さんが、 自称レイヤードの英雄で、 有名なトラブルシューター？
イオン	はい、このかたがレイヤードの…… む？ あなたが、予選の相手ですか？
セナ	うん。僕はセナ。 セナ・アシュビーって言うんだよ。 今日はよろしくね。
テルミ	へえ、まだ子どもなのに、 アクトマキアに呼ばれるなんて。 すごいね、キミ。
セナ	子どもだからって侮らないでね。 こう見えて、優勝候補の一人 だったりするんだよ。
イオン	おお、初戦から優勝候補。 歯応えがありそうですね、 ユーザーさん。
セナ	そんなに気張らないでよ。 僕の相手は、天渡ムツキだけって 決まってるんだからさ。
イオン	む……？ わたし達は敵ではない、 ということですか？
テルミ	……前言撤回。 ただの小生意気なガキだね。
セナ	テルミさんのことも知ってるよ？ 前からキレーなエチカ曲作る、 好みのお姉さんだと思ってた。
セナ	僕が優勝したら、テルミさんも きっと僕に夢中になるよ。 まあ、見ておいてよね！
テルミ	……………。 【ユーザー名】、イオン、 歪んだ後輩を教育したげて。

イオン	ふむ。歪んでいるかは わかりませんが、先輩の生き様は 見せてあげましょう。
イオン	さあ、お兄さん…… ではなく、ユーザーさん。 アクトマキア——初戦です！

話者	台詞 / ト書き
	//セナとバトル
セナ	世界は若者が更新するんだからさ。 もっと若者に晴れ舞台を 譲ってよ、お兄さん。
セナ	さあ、ライト。 仮想現実の勇者の力、 お兄さんに教えてあげて！
ライト	……わかった、セナ。 レイヤードでは、 俺の命はお前のものだ。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキアステージ
セナ	あ、あれ……？ ウソでしょ……。 僕が、こんな予選ぐらいで……。
セナ	僕は勝たなきゃいけないんだ。 いっぱいライバルを倒したんだ。 みんなに、勝つって約束した。
セナ	これほ…… このオルタナステージは、 僕が勝つ物語のはずなんだッ！
イオン	——ふむ。 なかなか強い、ACTへの愛と レイヤードへの思い入れを感じました。
セナ	お兄さん達のほうが、 世界に望まれてるっていうの……？ そんなの、僕は認めない……！
テルミ	往生際が悪いなあ。 まだまだ先が長いんだから、 負けは負けて認めなよ？
セナ	わかったようなこと言うな！ 先が長いことと、 負けを認めることは別なんだ！
イオン	……まだステージは配信されてますよ。 そのぐらいで、発言を控えたほうが 自分のためかと。
テルミ	うわ、ホントだ。 UNPLすごい溜まってるよキミ。 アカウントデリートやばいって。
セナ	う……ううう。 応援してくれたみんなに なんて言えば……。
イオン	また改めて戦いましょう、セナ。 ユーザーさんもわたしも、 いつでもあなたを迎えますから。
セナ	……………。 やめろ。僕に同情するな。 主役は僕のはずなんだ。
セナ	僕は、絶対に…… 絶対、お兄さん達のほうが 上だなんて、認めないからな……！
	//セナ退場
イオン	んむ……行ってしまいましたか。 心配ですね、ユーザーさん。
テルミ	しょうがないよ、勝負だもん。 あの子に胸張らせたいなら、 優勝目指そうよ。
イオン	……そうですね、テルミ。 勝ち残りましょう、ユーザーさん。 彼の未来のためにも。
	//全員退場
ラザロ	……さすがに初戦敗退ってことは なかったみたいね、アナテマ。

アナテマ	はい、ラザロ様。 それどころか、ご期待以上の 戦いぶりだったかと。
ラザロ	そのようね。 でも、次の相手は—— オガミはそうはいかないわよね？
アナテマ	はい。 なにしろ、ラザロ様に長年仕える サムライでいらっしゃいますから。
ラザロ	レイヤードの頂点に立ちたいなら。 この力を渡す器を持っているなら、 ——ここまで、登ってきてね？

STAGE 12, "アクトマキア開戦" 2

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキアステージ
キョータロー	よお、【ユーザー名】！ 順調に勝ち残ってるな。
イオン	お、キョータロー。 そちらも勝ち進んでいる みたいですね。
キョータロー	まーな。 お前らのライバルがここで 負けるわけにいかねーだろ？
キョータロー	それより、お前らの次の相手…… 気をつけろよ。 これまでの相手とはワケが違うぞ。
イオン	んむ？ キョータローの知っている ACT使いですか？
キョータロー	知ってるもなにも、憧れの相手だよ。 オルタナステージ創設当初から 活動してる、超熟練ACT使いだ。
キョータロー	その名もオガミ。 今やオルタナステージを守護する レイヤードのサムライ——。
オガミ	言いすぎだ。 俺はただの浪人だよ。
キョータロー	げ、本人だッ！ 【ユーザー名】、 あとは任せるぞ！
キョータロー	——俺の相手も、一筋縄じゃ いかねえみたいだしな。
	//キョータロー退場
オガミ	……やれやれた。 引退しそびれると、 風聞ばかりのさばるな。
イオン	おお、レイヤードのサムライ。 ふむ、ここに来て日本的な 英雄像が立ちはだかりますか。
オガミ	英雄なんかじゃない。 その在りかたは、 ラザロに許されていない。
イオン	ラザロ……？ 彼女のお友達ですか？
オガミ	そう思っていたのも昔の話だよ。 俺は、ただの雑兵だ。
オガミ	あいつが求める、理想の舞台。 俺にできるのは、 それを守ることだけだ。
イオン	理想の舞台を守る——。
オガミ	そうだ。意思弱き者を叩き潰し、 舞台から追いだす。 そういう役目も必要なのさ。

イオン	……ユーザーさん、 このかた、ジョシュアに ちょっと似ていませんか？
オガミ	ジョシュア、か…… お前らは、あの男に 出会ったことがあるんだな。
オガミ	あいつは…… あの男は、俺の敵だ。 ヤツさえいなければ……。
イオン	んむ……？
オガミ	なんでもない。 ヤツと縁のあるお前らならば、 あるいは……。
オガミ	いや、雑念は捨てよう。 全ては、このステージの 雌雄を決したあとだ。
オガミ	抜かせてもらう。 俺の剣——ソハヤブレイドを！
ソハヤブレイド	やってやろうぜえ、オガミ！
イオン	——ふむ。 複雑な想いを抱えている ようですね、オガミ。
イオン	その想いを拓くためにも。 相手になりましょう、ユーザーさん。

話者	台詞 / ト書き
	//オガミ&ソハヤブレイドとバトル
オガミ	俺はオルタナステージの最古参。 ラザロが試したい者を試す者。
オガミ	【ユーザー名】。 俺が、お前の未来を試す。 このアクトマキアの舞台で。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	<p>■アクトマキアステージ</p>
オガミ	<p>……久しぶりだ。 敗北は。</p>
オガミ	<p>【ユーザー名】。 そして、その側に立つACT。 その力で、ラザロを救ってやってくれ。</p>
イオン	<p>ラザロを救う……？</p>
オガミ	<p>あいつは、自分が生み出した 世界のルールに呪われている。 己の現実を知らしめる舞台——</p>
オガミ	<p>このオルタナステージという、 レイヤードの根源に関わる呪いに。</p>
イオン	<p>呪い、ですか。 穏やかではありませんね。</p>
オガミ	<p>そうだ。 オルタナステージは、 お前達の知るただの娯楽ではない。</p>
オガミ	<p>この戦いの頂点に立った者は、 さらなるステージを試される。 そして、ラザロにさらなる力を与える。</p>
オガミ	<p>力は、より強くあいつを呪う。 あいつは——ラザロはもう、 力を持つべきじゃないんだ。</p>
オガミ	<p>そのときは、お前達も 己の強さを呪うことになるだろう。</p>
イオン	<p>ユーザーさんの強さが、 間違っただけに向かうと？</p>
オガミ	<p>間違っただけに歪められる、 と言ったほうが正しいな。</p>
オガミ	<p>……これ以上は言えない。 あいつが、俺を見ている。</p>
イオン	<p>んむ……？</p>
オガミ	<p>お前が、真の強者であることを—— 英雄であることを祈る。 情けない話だが、託させてくれ。</p>
オガミ	<p>頼むぞ、 【ユーザー名】……。</p>
	<p>//オガミ退場</p>
イオン	<p>……不明瞭なお願いでしたね、 ユーザーさん。 これでは——。</p>
イオン	<p>この状況は、 わたしも安易に肯定できません。</p>

イオン	ユーザーさん。 ……なんだか不安ですが、 それでも、先に進まなければ。
	■暗転
ミアラカ	はーあ。 ついてないですねー、 キョータローさん。
キョータロー	そうだな、ミアラカ。 どうせなら、もっと先がよかったよな。
ミアラカ	まあ、早いうちにぶつかっておくのも いいかもしれませんね。 心の整理もつけやすいですし。
キョータロー	心の整理をつけるのは、 お前のほうだけだな。
ミアラカ	はっ。笑わせないでください。 私はこう見えても、 シャンバラの代表ですよ？
キョータロー	知ってるし、リスペクトしてるって。 ——だから、お前にしか見えない 現実を俺にも見せてくれ。
ミアラカ	いいでしょう。 キョータローさんに、より高次の現実を この戦いで示してあげますっ！
キョータロー	来い、ジR！
キョータロー	おいで、コロンゾン！
ジR	高次の天使が相手だろうと、 我とキョータローの 正義は折れぬ！
コロンゾン	WRRRRR…… ミアニ、イツモノオレイ……！

STAGE 12, "アクトマキア開戦" 3

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキア会場
イオン	お。ユーザーさん、 あちらの会場がなにやら 盛り上がっているようです。
ミアラカ	はふー…… さすがキョータローさん、 やりますねえ……。
キョータロー	お前も想像以上だったぞ。 全く手は抜けなかった。 さすがはエンパーだ。
ミアラカ	ふっふふー……でしょ？ つか、キョータローさんは本当に、 身内にも手を抜かないんですね。
ミアラカ	えへへ…… 私の、負けです。 参りましたっ！
キョータロー	……頑張ったぞ、ミア。 お前なら、ここじゃなくても 誰かの希望になれるさ。
キョータロー	そして——見てるんだろ、 【ユーザー名】！
イオン	！！
キョータロー	上がってこい。 次の対戦相手はお前だ。
キョータロー	今日のヒーローは—— アクトマキアの英雄は、 この俺だッ！
	//全員退場、画面暗転
テルミ	あっちは、キョータローと 【ユーザー名】の対戦か。 応援したげなかったな。
ムツキ	よそ見などしている 余裕があるのかな？ シンガーツールの使い手よ。
テルミ	そっちこそ大物ぶってたら 痛い目見るよ、アイドル王さん。
ムツキ	ほう……いい目だ。 イオンのついでと思っていたが、 貴様もよき収穫となるか？
テルミ	肥やしになるのはそっち。 あたしのエチカは、 アイドルには負けない。
テルミ	【ユーザー名】が 後ろにいてくれないのは、 ちょっと不満だけどね。
ムツキ	……ぬ？
テルミ	ホントさ、なんだかかって 思うんだけどさ。 自覚できてきたんだ。

テルミ	彼が応援してくれてるってだけで…… あたしって、実力以上の実力を 発揮できるみたい。
ムツキ	貴様…… その感情は……。
テルミ	い、言わないでいいからね？ この戦いに勝てたら、 自分から言うから。
テルミ	あたしが利用しようとしても、 へこたれたりしても、 受け入れてくれたヒト……。
テルミ	彼のために、 歌を作るのも悪くないかも——って。
ムツキ	ふ……ふふふ。 ふふははっ♪
ムツキ	良い！ 実に良いぞ、貴様！ 正しく乙女で、素晴らしく愛しい！
ムツキ	貴様の想いを成就すべく、 私も全霊をかけたステージを 開演してやろうッ！
	■暗転
キョータロー	……あっちのステージも 盛り上がってて気になるな、 【ユーザー名】。
キョータロー	だが、今の相手はこの俺だ。 わかってるな？
イオン	はい、キョータロー。 改めて、あなたとの決着をつける 機会がやってきました。
キョータロー	お前らは、もうかなりの有名人だ。 視聴者の大多数は、お前が勝って 予想してるみたいだな。
キョータロー	まあ、それもいいさ。 予想を裏切る逆転勝利のほうが、 民衆のヒーローって感じるもんな！
イオン	卑屈になってはいないみたいですね。 成長しました、キョータロー。
キョータロー	上から目線で評価してんなよ、 イオン？ あのころの俺とは違うんだからな。
キョータロー	さあ、やるか【ユーザー名】。 最高のステージにするぞッ！

話者	台詞 / ト書き
	//キョータロー&ジRとバトル
キョータロー	ジR、ふんばれよ。 憶病者のクソガキを、 ヒーローにしてくれ！
ジR	承知した、キョータロー。 王道の強みを、 人々に知らしめよう！
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキアステージ
キョータロー	へ、へへへ……負けたかー。 まあ、やれることは全部、 やりきったかな。
キョータロー	お前に負けるなら、 世間への言い訳も楽ですむわ。 【ユーザー名】、完敗だ。
イオン	ふむ……配信の評判も、 上々のようです。 世間は十分に納得したみたいですね。
イオン	よいステージでした、キョータロー。 あなたとユーザーさんは、 最高のライバルです。
キョータロー	そりゃありがとさん。 ……隣のステージも見とけよ？ そっちの勝者が決勝の相手だからな。
イオン	んむ……？
テルミ	また……負けかあ。 いいとこないなー、あたし……。
ムツキ	……………。
テルミ	ホント、ここまで来たら、 応援してくれたテルミPファンに 申しわけないし……な。
ムツキ	……………！？ 貴様、なにをしている！
テルミ	——ドゲザ。 ぐらいしなきや、ファンに 許してもらえないだろうし。
ムツキ	ならん。 一度ばかり敗地に塗れようとも、 貴様の誇りが失われたわけではない。
ムツキ	貴様や私の信じるACTは、 形を違えども、人々の夢を支える 幻想の似姿に他ならぬ。
ムツキ	我が手を取り、堂々と立て。 シンガーツールの使い手よ。 貴様の才は、このムツキが認めよう！
テルミ	……ちよ、ちよつと！？ あ、あたしこういう体育会系のノリ 苦手なんだけどッ！
観客	わあ—————！！ いいステージだったぞー！
イオン	……破った相手の誇りすら守る。 あれがムツキの—— アイドルの器ですか。
イオン	最後の相手として不足はありません。 世界の英雄が、世界のアイドルを 破るのですよ、ユーザーさん。

STAGE 12, "アクトマキア開戦" 4

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキア控室
イオン	もう残すは決勝戦のみですね、ユーザーさん。
イオン	信じてはいましたが、優勝を目前にして、わたしも興奮してきました。
イオン	しかし気が立ってては、勝てるものも勝てません。今のうちに、心を落ち着かせて――。
??	――。
イオン	んむ……？ これは……歌？
イオン	これはACTの―― いえ、人間の？ 解析できません、ユーザーさん。
??	解析は難しいでしょうね。 このレイヤードには本来、存在し得ない歌声だから。
イオン	……あなたは……！
	//選択肢 A 応援してくれてた人……？ B ここに入ってきちゃダメだよ？
選択肢A	応援してくれてた人……？
??	そうなんです～！ キャー、【ユーザー名】さん ステキー！最高にクールっ！
選択肢B	ここに入ってきちゃダメだよ？
??	あの、【ユーザー名】さんのサインがどうしても欲しくて……！ あ、あと、握手もお願いします～！
合流	
??	……ふふ。なんてね。
??	【ユーザー名】くんの前で名乗るのははじめてだね。 私は、プレロマ。
プレロマ	詳しくは言えないけど、シンギュラリティの向こう側から来た超知性ってとこかな。
イオン	なんの用でしょうか、このACT誘拐犯め。 しっしっ。
プレロマ	そんなヤボなことしないよー。 今回は、集団誘拐です。

イオン	む！？
	//画面フラッシュ。背景がULA渋谷に変化
	■ULA渋谷
イオン	背景レイヤーの強制変更……？ ここはどこですか、プレロマ！
プレロマ	直接見るのははじめてよね。 ここは、ULA渋谷。 夜の騎士に守られし楽園よ。
イオン	ULA渋谷……！ ここが、そうなのですか。 しかし、ずいぶんと——。
プレロマ	混乱の渦中にある—— ように見えるよね。
プレロマ	そう、これが今のULA渋谷。 滅びに向かう、 レイヤードの裏側だよ。
イオン	滅びに向かう——？ 彼らが、どうして……。
プレロマ	仕方ないことだよ。 みんながヴァルナカウンターを 受け入れた世界だもん。
プレロマ	でもね。今のまじや、 滅びは裏の問題だけじゃ すまなそうだよ？
イオン	は……？
プレロマ	聞こえるよね。 シンギュラリティ—— 特異点を越えた、彼女の声。
プレロマ	レイヤードの命運を握る者達の 因縁を結ぶ、ACTの歌が。
イオン	やはり、先ほどの歌は ACTの歌でしたか。
イオン	感想を述べにくい歌でしたが、 奇妙な引力のある歌でしたね、 ユーザーさん。
プレロマ	そうね。彼女の歌は、 知性を惹きつけすぎるね。 いい歌声なんだと思うよ。
プレロマ	でも、あなた達はそうもいかない。 その引力に耐えられる意思がなければ、 この先の戦いにも耐えられない。
プレロマ	だから、耐えてみせて。 私が作った、彼女—— ノアの歌声が流れる舞台に。
ノア	こんにちは。 わたしはノア。
イオン	ノア——おお。 はじめまして、イオンです。
ノア	イオン。 はじめまして、よろしくね。
プレロマ	さあ、開催しなさい。 飲み込まれずに、 あなた達のステージを。

ID	話者	台詞 / ト書き
		//ノアとのバトル
		//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	//画面フラッシュ
	■ULA渋谷
ノア	一緒……なら…… 乗り越えられるよ……。
	//ノア退場
	■アクトマキア控室
イオン	お？ ノアが帰ってしまいました、 ユーザーさん。
プレロマ	お疲れさまー。 でっちあげたコピーとはいえ、 ここまで耐えられたら安心ね。
プレロマ	【ユーザー名】。 あなたはノアの歌声にも 流されなかった。
プレロマ	私ですらも、認めざるを得ない。 ——あなたが、レイヤードを 更新する英雄だって。
イオン	ふむ。改めてファンになりましたか。 だからといって誘拐はダメです。 ユーザーさんはあげません。
プレロマ	もらわないってば、もー！ ちょっとはお母さんのことも 信頼してほしいなあ。
プレロマ	——と、よもやま話はさておき。 ノアが目覚めた以上、もう一人の 特異点を越えたACTも動き出すよ？
プレロマ	ノアを欲する者、心を欲する者の 活動を助けるため。 彼の真の理想を叶えるACTが——。
プレロマ	そのときレイヤードは、 より厳しい試練のときを迎える。 あなた達も、逃れられない。
イオン	……………。 具体性がありませんね。
	//選択肢
選択肢A	A さすがイオンのお母さんだね B どういうこと？
イオン	む。怒りますよ、ユーザーさん。 わたしはもっと具体的です。 彼女ほどフワフワしてません。
選択肢B	結局、どういうこと？
イオン	わかりません。 プレロマは、いつもこうなんです。 母を名乗るには無責任です。

合流	
プレロマ	ごめんね、イオン。 私の権限にも限界があるんだ。
プレロマ	ただし、体験させてあげられる 限りのことは、伝えてあげるよ。 あなた達にその気があるのなら。
イオン	それが必要なことならば、 わたしもユーザーさんも 知ることから逃げませんよ。
イオン	特に——ULA渋谷に、 関わることであれば。
プレロマ	……そう。 じゃあ、いつでもおいで。 私も、あなたに生きてほしい。
プレロマ	少しでも強くなった上で、 決勝に向かいなさい。 あなたの戦いははじめるために。

STAGE 12, "アクトマキア開戦" 5

話者	台詞 / ト書き
	■アクトマキア控室
イオン	ULA渋谷の窮地…… そしてノア。
イオン	アクトマキアの盛り上がりとは 裏腹に、壊れゆく世界も 存在するのですね……。
ラザロ	ごきげんよう。 ついに決勝まで辿り着いたわね、 【ユーザー名】。
アナテマ	目をかけた甲斐が ございましたね、ラザロ様。
イオン	ラザロ、そしてアナテマ。 あなた達はいったい、 なにを企んでいるのですか？
ラザロ	あら、企みだなんてそんなあ。 私の望みは、愉快的ステージと、 これを託す相手を探すことだけよ。
イオン	む？ そのペンダントは、 ラザロのデバイス……？
ラザロ	そう。これは私のデバイスであり、 オルタナステージを通して レイヤードを導く鍵。
アナテマ	ラザロ様は、そのペンダントを 『ヴァルナコンバーター』 と呼称します。
イオン	ヴァルナコンバーター……。 ヴァルナカウンターではなく？
ラザロ	このヴァルナコンバーターはね。 オルタナステージで得た評価点を、 他人へのUNPLに変換できるの。
アナテマ	すなわち、承認されればされるほど、 より大量のUNPLを 他人に付与できるのです。
イオン	評価点をUNPLに、変換——！
イオン	——わかりましたよ、ラザロ。 なぜあなたが強者を欲しがるか。
イオン	それがあれば、自らへの評価で 他人を裁くことができる。 他人からの評価で、他人を殺せる。
イオン	あなたは、より強い者を集め、 その評価の力で、レイヤードを 支配したいのですね？
ラザロ	言葉が過ぎるわねえ。 デメリットは与えてないのよ？ 与えるのはただの力。
アナテマ	ラザロ様は娯楽を通して秩序を守り、 英雄を育む、ヴァルハラを作りました。 それがオルタナステージです。
ラザロ	オルタナステージの王者が ヴァルナコンバーターを使って、 不要な異分子を掃除する——。

ラザロ	——人々が信じた英雄が、 人々の平和を保つ。 理にかなっているでしょう？
イオン	……少数派は、 社会の異分子に過ぎないと？
ラザロ	そうよ。あなた達には、 私の旗印になってもらうわ。
イオン	そのような要請に、 わたしやユーザーさんが 賛成すると思っているのですか。
ラザロ	賛成するわ。 だってシステムはまだ、 私の掌中にあるのだもの。
ラザロ	アカウントも、ACTも。 私は私が集めた評価で、いつでも 他人をデリートできるのよ……？
イオン	——脅迫、ですか。
アナテマ	先導、ですよ。 我々は、英雄を導くための、 システムガイドなのです。
ラザロ	世界を救うか、世界から消えるか。 返答はあなた達次第だけれど、 よい英雄になってちょうだいね。
アナテマ	期待しながら観戦いたします。 それでは。
	//ラザロとアナテマ退場
イオン	……………。 ユーザーさん。 わたしは、なにも強要しません。
イオン	選んでください。 決勝の舞台で、 あなたの進む未来を。
	//選択肢 A 答えは決まっているよ B ムツキが待っている
選択肢A	答えは決まっているよ
イオン	はい。 わたしは、ユーザーさんの 答えを信じます。
選択肢B	ムツキが待っている
イオン 合流	はい。 この先に、ユーザーさんを 心待ちにしているかたがいます。
	■アクトマキア会場
ムツキ	ふふは。 残ったのはやはり貴様とイオンか。 私の目に狂いはなかったな。
イオン	……ムツキ。 もしかして、あなたもラザロに……。
ムツキ	……なんの話かな。 最強を決める戦いの場に、 無為な言葉を持ちこむな。
ムツキ	私はなにも聞いていない。 聞いたとしても、意には介さん。
ムツキ	自分の表現でレイヤードの 頂点に立つ。 それ以外のことは忘れよ。
イオン	しかし、ムツキ——。

ムツキ	黙れ。いかなる事情があろうと、 私は勝利以外を求めない。 殺すつもりで来い。
イオン	…………ふむ。 語り合う時間などは 認められないようですね。
ムツキ	そうだ。 お前が相手ならば、 このACTをDLできる——。
ムツキ	来たれ、我が偶像！ 興れ、我を称える楽土！ 我が主は、我のみなり！
イオン	——！？ このタイミングで、 新しいACTを！？
	//画面フラッシュ。
ベールムツキ	私はムツキ。 レイヤードの輝きを続べし者。
イオン	ムツキ、本人……！？ 自らの姿を、ACTと呼び出す などということが……！
ムツキ	ふふは。凡人であれば不可能だろうが、 私はすでにレイヤード社会で、 アイドルとして認知されている。
ムツキ	キャラクターとしての私を、 私自身が求めれば。 ACTとして使えるのも道理ッ！
イオン	ふむ……ACT使いは数いれど、 それを道理に採用できるのは ムツキぐらいでしょうね。
ムツキ	己の主になれるのは、己だけだ。 私は自分と、自分が存在できる この可愛い世界を愛し、肯定する。
ムツキ	無為に戦う英雄など、 アイドルの前には無力。 時代に抱かれて廃れるがいい！
イオン	…………ユーザーさん。 あなたは、勝利を譲ることも、 逃げることもできました。
イオン	恐らく、この戦いに勝ってしまえば、 ユーザーさんの道はより、 困難な道になりますね。
イオン	それでも、勝利を願うなら。 それでも、わたしと一緒に戦い、 選ぶ未来が見えているのなら。
イオン	——わたしは、どこまでも ユーザーさんをお手伝いいたします。

話者	台詞 / ト書き
	//ムツキ&パールムツキとバトル
パールムツキ	英雄とヒロインか、無二のアイドルか。 より優れた者を示すことで、 新しき世界を拓こう！
イオン	ユーザーさん。 あなたの選択に、真の勝利を。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
イオン	——勝利です、ユーザーさん。
ムツキ	ふふ……ふふは。 ここまで成長していたか、 【ユーザー名】。
ムツキ	認めよう。その力量であれば、 イオンと共に立つ英雄として、 何者も異論を挟まぬだろう。
ムツキ	称えよ、全ての者よ！ この者達こそが、レイヤードの ヒーローとヒロインだっ！！
観衆	わあああ————っ！！
	//歓声のSE
キョータロー	やりやがったな……！ 【ユーザー名】！
テルミ	うん。 やってくれるって信じてた。
ミアラカ	先生もイオンさんも、 サイコーにかっこいいですっ！
イオン	ユーザーさん。 ラザロの元に向かいましょうか。
	■パーティ会場
ラザロ	素晴らしい勝利だったわ、 【ユーザー名】。 これほど興奮するステージははじめて。
アナテマ	レイヤードは、 英雄の誕生に震えています。 新しい時代が訪れるでしょう。
イオン	——新しい時代、ですか。 あなた達が強要する 秩序の時代が、ですか？
ラザロ	……ULA渋谷のような例外は、 許してはいけないのよ。 より世界を攪張するためにも。
ラザロ	彼から与えられた、最上位のレイヤーに アクセスする権利。 それを元に作ったオルタナステージ。
ラザロ	私は——私の権限で、 レイヤードを健全な社会に保つ 理由がある。
アナテマ	……………。
ラザロ	あなた達はいまや、社会の英雄。 マイノリティ気取りの共同体を 滅ぼすぐらい、目じゃないわよお？
イオン	ラザロ。 ユーザーさんは、 覚悟を持ってムツキを倒しました。

イオン	たとえUNPLを表明されようとも、もうユーザーさんはあなたが望む英雄にはなりません。
ラザロ	……なんですか？
ムツキ	ふん……聞かせてもらったぞ、新垣ラザロ。この手抜き理想主義者め。
ラザロ	あら、天渡ムツキ。敗者がここになんの用かしら。
ムツキ	そいつと戦った私にはわかる。ここに到達できた者が、保身に甘んじると思ったか？
ムツキ	彼を脅迫するならば、私も相手になる。私と彼を同時にデリートできるなら、やってみせるがいい。
ラザロ	……脳筋アイドルごときに、なめられたものね。
ラザロ	そんなにACTごと消えたいなら、消してあげるわ。代わりに英雄はいくらでもいる！
イオン	……！ ユーザーさん、わたしはたとえ消されても、最後まであなたの――。
ラザロ	//画面フラッシュ、連続するピーブ音。 な、なに！？
システムガイド	深刻なエラーが発生しました。 深刻なエラーが発生しました。 深刻なエラーが発生しました。
	■アクトマキア会場
キョータロー	な、なんだこりゃ……？ システムガイドがエラー吐きだしまくってるぞ？
ミアラカ	というか、オルタナスステージにアクセスできなくなってますけど！？
テルミ	こんなバグ、はじめて……。 どうして、このタイミングで……？
	■パーティ会場
ムツキ	……なにが起きている？ オルタナスステージ―― いや、レイヤードが妙だ。
イオン	ラザロ。 これもあなたの企みですか？
ラザロ	わ、わわ、私はなにも…… アナテマ？
アナテマ	こ、これはなんなの？
ラザロ	――機は熟した。
アナテマ	え……？
イオン	英雄が生まれ、舞台が特異点を越える。 今こそ世界が『現実』に還るとき――。
イオン	……………！？
アナテマ	欲にまみれし全ての者。 アナテマの名において呪われよ！！
ラザロ	あ、ああ、アナテマ……！？
イオン	これは……！？ オルタナスステージのルールが、改変――。
イオン	いえ、崩壊していきます、ユーザーさん！！
	■画面闇
システムガイド	ユーザーの皆様へ。 大変残念なお知らせです。
システムガイド	オルタナスステージのサービスは、突然ながら、本日で終了いたします。 新サービスへの移行をお急ぎください。
システムガイド	繰り返します。 この甘ったれた現実逃避は、本日で終了いたします。